

ニュース&トピックス

『JA共済 地域貢献活動 PROJECT STORY』VOL. 8を発行

直売所出荷者の育成を通じた地域農業振興に取り組むJA静岡市の活動を紹介

JA共済連では、JAとJA共済連が全国各地で取り組む地域貢献活動がより活発化し、地域の皆さまに喜んでいただけるよう、活動に携わるJA・JA共済連職員の創意工夫や苦勞、地域の皆さまの喜びの声などを系統内に紹介する資料『JA共済 地域貢献活動 PROJECT STORY』を令和4年度から発行しています。この度、第8弾が完成しましたので、ご紹介します。



『JA共済 地域貢献活動 PROJECT STORY』VOL. 8
静岡県 JA静岡市 [じまんの農業塾]

◇生産から販売まで行える生産者の育成に取り組む

第8弾は、地域住民に農業について学ぶ機会を提供し、産地を支える担い手の育成に取り組むJA静岡市の活動をお伝えしています。

JA静岡市では、農業に関心のある人や新規就農を目指す人を対象に、栽培技術や販売方法を指導し、最終的にはJA静岡市が運営する直売所「じまん市」に出荷する生産者の育成を目的として「じまんの農業塾」を開講しています。

「じまんの農業塾」を始めた背景には、農家の高齢化によるじまん市への出荷者数の減少があります。地域住民が地域の特産物や生産者と触れ合う大事な接点である直売所を維持し地域農業の振興を図るため、出荷者を増やすことが喫緊の課題となっていました。

そこでJA静岡市では、農家以外の地域住民にも間口を広げ、生産から販売までを行うことができる農業の担い手を育成する取組みとして、営農経済部、販売部、企画部の3部門が連携し、「じまんの農業塾」を令和3年度から開講しています。

◇自分が育てた野菜を収穫し、対面販売

塾生は1年をかけて野菜の栽培技術を学び、年に2回、収穫した野菜をじまん市の店頭で実際に販売します。令和

7年1月には、3期生が秋冬野菜の販売を行いました。

塾生は朝から畑に集まり、JA職員のアドバイスを受けながら自分が育てた野菜を収穫。じまん市へ搬送し、JA職員による指導のもと、パッキングや値付けをして、対面販売を行いました。



野菜を収穫し、じまん市で販売する塾生

栽培技術に加え、販売ノウハウの指導も行うことにより、これまでに1期生から1名、2期生から4名の出荷者が誕生。令和7年3月に修了した3期生からは5名が、修了後から間を置かず「じまん市」への出荷を予定しています。

また、塾生からは「農業経験が浅い自分にとって、JAに相談するのはハードルが高かったと思っていたが、気さくに何でも教えてくれるので、距離が近くなった」、「JAは農家のための組織だと思っていたが、農業未経験者もオープンに受け入れてくれるんだ」といった声が聞かれ、「じまんの農業塾」は生産者の育成にとどまらず、地域住民がJAに親しみをもつきっかけにもなっているようです。

◇WEB上でも本取組みを視聴することができます

JA静岡市の「じまんの農業塾」の取組みは、JA共済地域貢献活動ホームページ「ちいきのきずな」内の『一緒に地域を咲かせよう』でもご覧いただくことが可能です。『一緒に地域を咲かせよう』では、県域独自で展開する様々なJA共済の地域貢献活動を紹介していますので、併せてご覧ください。

JA共済地域貢献活動紹介ホームページ「ちいきのきずな」
『一緒に地域を咲かせよう』

https://social.ja-kyosai.or.jp/prefecture_case/

